

ニッポンハム食の未来財団 2021年度第一期 団体活動支援助成 完了報告書

企画活動名	第6回ふくおか食物アレルギー攻略法講座 ーアレルギー診療の最新の明るい話題をおとどけしますー
フリガナ	シバタ ルミコ
申請者（代表者）氏名	柴田 瑠美子
団体名（正式名称）	団体名：特定非営利活動法人 福岡食物アレルギーネットワーク 申請者の役職・肩書など： 理事長

1. 活動結果要約

今回の講演会の目的は、食物アレルギー児を持つ保護者(特に新しく食物アレルギーと診断されたお子さんの保護者)や園/小学校関係者は、お互いの立場から新入園入学での集団生活に多くの不安を持っているため、食物アレルギー専門医師を講師として、まずは機序等の基礎知識を知ってもらい、事故の無いようにエピペン注射剤の打ち方/注意点を含む集団生活での注意点を解説し理解してもらうこと。

また、アレルギー診療の最新の話題として「プレバイオティクスの効果」「生物学的製剤の効果」等を提供することで不安を解消し治療のアドヒアランス向上に貢献することである。

さらに この講演会の動画を配信し、遠方やコロナ影響で参加できなかった方へ見てもらうことで当日参加と同等の知識を習得してもらうことができる。

講演会終了後の参加者アンケートから一番多かった評価は、基礎知識と集団生活の注意点を正しく理解できたとの評価。特に園/学校の新しく着任した職員には、コロナ禍のため自施設へ講師を招いてのエピペン注射剤の講習ができない状態であるので、緊急に備えた講習ができ万一に備えることができた との評価。また、アレルギー診療の最新の話題については、患者保護者の方々から治療に対して明るい材料であり前向きになれる との評価であった。

2. 活動目的

【活動の目的】

- 1、食物アレルギーとは何かを基礎からしっかりと学び、まずは日常生活が円滑に行える状態になるように理解しておく。
- 2、食物アレルギー児が新しく集団生活を始めるにあたって事故の無いように生活する方法を保護者、園/小学校関係者ともに知っておく必要がある。
- 3、エピペン（アレルギー児が誤食等によりアナフィラキシーを起こした場合に症状の進行を一時的に緩和しショックを防ぐための注射剤）について、保護者側は処方時に使い方の説明は受けているが、使う機会がないと忘れてしまう。万が一の時にスムーズに使用できるように、使う場面および実機を使用して使い方をマスターしておく必要がある。
また、園/学校関係者は、昨今の新型コロナ禍によりエピペン実地講習ができておらず、特に新着任の職員はまったくエピペンに触ったことがないため、講習が急務である。
- 4、アレルギーの診療において、最近「プレバイオティクス」「生物学的製剤」の効果を発表するものが増えてきた。アレルギー児を持つ保護者に対して治療にむけての最新の明るい話題を提供することで不安解消の1つとしアレルギー治療のアドヒアランス向上に貢献する

3. 活動方法

【実施した内容】

1, 講演会実施 2022年10月31日 12:30~16:00

対象：食物アレルギーのお子さんとそのご家族、園/学校関係者 62名参加

内容：1, アレルギー基礎講座/新入園、新入学に備えて（生活上注意すべき点）

座長：黒川 美知子先生（くろかわみちこ小児科クリニック院長）

演者：後藤 綾子先生（福岡大学病院小児科）

2, 腸内細菌とアレルギーの最新の話

座長：下村 国寿先生（下牟田小児科医院 元院長）

演者：柴田 瑠美子先生（国立病院機構福岡病院アレルギーセンター顧問）

小児科非常勤医師)

3, アレルギーに関連する腸内細菌の研究～ケストースの効果の紹介～

座長：柴田 瑠美子先生

演者：栃尾 巧先生 (藤田医科大学医学部消化器内科学講座 客員教授

専門/プロバイオティクス/プレバイオティクス)

4, 喘息/アトピー性皮膚炎の新しい治療薬

座長：梅野 英輔先生 (梅野小児科内科医院 理事長)

演者：手塚 純一郎先生 (福岡市こども病院アレルギー・呼吸器科科長)

5, エピペンの使い方

座長：松田 健太郎先生 (松田小児科医院 院長)

演者：増本 夏子先生 (国立病院機構福岡東医療センター小児科)

6, 吸入器の使い方

座長：松田 健太郎先生 (松田小児科医院 院長)

演者：岡松 由記先生 (飯塚病院小児科部長)

7, アレルギー対応商品の展示とサンプル配布

2, 講演会の動画を編集し 配信

対象：講演会にご参加をいただけなかった方々を主として、ホームページやメールでの告知を見て興味を持った方々

期間：12月5日より2月28日まで実施済み

【当初の計画と比較して計画通りに実施できたこと】

当初計画と実施評価

- ・2021年10月のいずれか1日に180分程度→○10/31(日) 210分
- ・福岡市内の会場で→○あいれふ講堂 福岡市中央区
- ・アレルギー専門医師を講師として→○ 講師6名

- ・対象は、福岡及び近郊の食物アレルギーのお子さんをお持ちの保護者（特に新入園新入学のお子さんをお持ちの保護者） および園／小学校関係者の合計 80 名→ △コロナの影響で 62 名
- ・講演会を動画撮影し配信することで、参加できなかった方々含め広くに閲覧いただく→ ○12/5～2/28 まで配信済み

【当初の計画と比較して計画通りに実施できなかったこと】

- ・参加人数はコロナの影響もあり計画（80 名）より若干少なかったが、他は計画通りに実施できたため、実施できなかったことはありません。

【計画から外れて実施したこと】

- ・計画した事項のみ実施したため外れて実施したことはありません。

4. 結果及び波及効果

【活動の結果】

- ・講演内容について、終了後のアンケートから、保護者からは、アレルギーの正しい基礎知識が取得できてよかった 集団生活の注意点がわかってよかった との評価を得た。
- ・園/学校関係者からは、新着任の関係者の参加が多く、ご家族同様に正しい知識が取得できた、お子さんを預かる上での集団生活での注意点がわかってよかった との評価を得た。
- ・プレバイオティクスや生物学的製剤などの最新の治療について学べ、治療とうまく付き合いながら食べられるようにまたは症状軽減できるようにしていくことがわかったので 不安が解消され前向きになれた との評価を得た。
- ・エピペン（アレルギー児が誤食等によりアナフィラキシーを起こした場合に症状の進行を一時的に緩和しショックを防ぐための注射剤）について、なかなか打つ機会がないので不安であったが、実際に注射器を使うことができたので、体で覚えることができた との評価。
- ・アレルギー対応商品の展示により、対応商品がこんなに豊富にあることを知らなかったかたが、アンケート記入の方の 80%いらっしゃって、うまく付き合っって子育てをしていく上で参考にな

る、また保育園での給食やおやつの幅が広がったので良かった との評価を得た。

- ・動画配信により 遠方にお住まいや当日体調不良で参加できなかった方が動画を視聴され、正しい最新の情報が見れてよかった とのメールでの評価をいただいた。

【活動の波及効果など】

1、活動終了時の成果 （保護者に対し）

- ・食物アレルギーの正しい知識を身につけた状態（食物アレルギーの基礎知識～最新情報）になってもらった。
- ・園/学校の集団生活で、事故を防ぐためにやっておくことを理解いただき、万が一の時にエピペンをすぐに使える状態になってもらった。
- ・プレバイオティクスや生物学的製剤の最近の話題を知ること、治療に明るい先があることをご理解いただき不安の1つが解消された状態になった。

2、活動終了時の成果 （園/小学校関係者に対し）

- ・食物アレルギーの正しい知識を身につけた状態（食物アレルギーの基礎知識～最新情報）になってもらった。
- ・事故を防ぐために園関係者が、保護者と何の情報をすり合わせるべきかがわかった状態になってもらった。
- ・どういう場面でエピペンを使うべきか、使わなければいけない時にすぐに使える状態になってもらった。

3、波及効果

- ・当該講演のトピックスを 動画に編集しホームページおよびメール配信と会員小児科クリニックから外来に来られる患者様へ発信し、多くの方に正確な最新のアレルギー情報を提供することができた。
- ・講演最後に Q&A をおこなったが、保護者からの悩み、園/学校関係者からの悩みを共有できたため、同じ不安や疑問を持った方々に対しその解消ができたこと、およびこれから同じ事象にあった場合に対処できるように情報共有ができた。

- ・この講演会もおかげさまで6回目を迎え、園/学校の一部では、新人職員のアレルギー研修の場との位置づけで参加いただいているため、他の園/学校でも研修の場として活用してもらおう。

5. 今後の活動について

【今後必要なこと】

- ・毎年、新たに食物アレルギーと診断されるお子さんは増えており、日常生活や災害時対応、感染症対応に不安や疑問をかかえている保護者も多く、さらにネットの情報氾濫により、不確かな情報を見て間違った対応をする方も多くいるため、専門医による正確な知識の啓発は継続する必要があると考える。

そのための方法は、講演会や相談会活動、ホームページからの情報発信を継続していくことが第一で、当ネットワークまたは主催の講演会/相談会にすれば解決できることを知ってもらおう。特にエピペン講習は、コロナ禍により園や学校での実地研修が無くなっている状況のため、講演会動画の配信でいつでも見て緊急に備えてもらうことが必要と考える。

【考えられる波及効果】

- ・アレルギーに関する正確な情報が伝われば、エビデンスに基づいたガイドラインに沿った検査～治療に参加することで、早い寛解が望め不安なく子育てをおこなってもらえる。
- ・当ネットワークは専門医師とアレルギー児の子育て経験者で構成されているため、相談等の回答をすることで、不安や疑問を解消し子育ての応援ができる。

【終了後の活動計画】

- ・ホームページにより、いつでも相談を受付けている旨配信し、相談窓口を開放しておくこと。
- ・新たに食物アレルギーと診断されるお子さんおよび園/学校で新しく着任される職員の方々に、正確な最新のアレルギー情報の提供を行うため、ホームページによる発信と講演会/相談会の企画を行うこと。
- ・エピペン動画は継続して配信することで、方法/注意事項をいつでも見て再確認できる状態にす

る。

以上